

令和元年 6 月議会一般質問

全文

福岡県の経済振興について

○平井 一三

皆さん、おはようございます。自民党県議団の平井一三であります。通告に従いまして、早速福岡県の経済振興について質問を行います。

福岡県の経済は、経済指標も全国を上回り、緩やかに拡大をしていると言われておりますけれども、海外経済の減速の影響を受けて予断を許さないところであります。長年転勤族でありました私は、福岡は住みやすく魅力あふれる県であると思っておりました。他県から出張で来られる方からも高い評価を得ていた記憶があります。特に、福岡に転勤で来られ、家族で生活をされた方は、そのまま福岡に永住を希望する方がたくさんおられました。私は、今日まで福岡県が住みたい町、住み続けたい町のトップクラスに位置するものと思っておりましたが、残念ながらある調査では中位以下と、このような評価もあったようで大変残念に思っております。私もこの愛する福岡県が、将来は日本一住みやすく元気な町になってほしいと願っている県民の一人であります。そのための要素は多々あると思いますが、まずは、経済が元気でなければならないと思っております。活力ある経済活動を支える一つの大きな要素は町のにぎわいであります。そのためには、ビジネスや観光で福岡を訪れる人がさらに増加していくための施策を講じていくことが重要であろうと思っております。

このような観点から、一つ目はラグビーワールドカップを盛り上げるために、二つ目は世界のビジネス拠点としての取り組みについて、三つ目は欧米からの直行便誘致についての以上三項目について質問を行います。

まず、一つ目の項目として、大きな経済効果が期待されるラグビーワールドカップについて質問を行います。いよいよラグビーワールドカップが九月二十日に始まり、十一月二日まで熱戦が繰り広げられます。福岡県では九月二十六日を皮切りに、十月二日、十月十二日と三試合が予定をされています。大変楽しみであります。昨年八月三日に福岡県観光産業振興議員連盟が当番県として、ヒルトン福岡シーホークにおいて、九州七県の県議会議員、行政、観光関係事業者などの参加を得て、九州が一体となった観光産業の振興に寄与することを目的に、九州観光振興議員連盟と一般社団法人九州観光推進機構とが主催する第三回九州観光振興大会を開催し、ラグビーワールドカップ二〇一九を契機とした九州のスポーツツーリズムをテーマに、パ

ネルディスカッションや大会宣言を行いました。小川知事にも御来賓として出席をいただき、スポーツを初めさまざまな切り口で、地域振興、観光振興にしっかりと取り組んでまいりますとの御挨拶をいただきました。ラグビーワールドカップの開会までおよそ三カ月となりましたけれども、まだまだ十分に盛り上がっているようには感じません。少し心配をしているところであります。

そこで、これまでの取り組みと今後の計画についてお聞きをしたいと思います。まず初めに、九州が一体となった取り組みについてお聞きをいたします。各県と連携した周遊ルートの作成など、どのような取り組みを行っているのでしょうか。

次に、ファンゾーンや町なかのイベントなどにおいて大会を盛り上げるための企画には、今後、どのようなものがあるのでしょうか。具体的な取り組み予定をお聞かせください。

今回のラグビーワールドカップのキャッチコピーは、「四年に一度じゃない。一生に一度だ。」であります。福岡県としても、福岡での大会を盛り上げ、成功させなければならぬと思っております。開会まで約三カ月を残すばかりとなりましたけれども、知事の決意をお聞きいたします。

次に、二つ目の項目として、世界のビジネス拠点としての取り組みについてお聞きをいたします。今月六月の八日と九日に、G20 財務大臣・中央銀行総裁会議が福岡で開催されました。国際社会に福岡が認知されるよい機会であったと思います。今後もこのような国際会議やイベントが数多く開催されることを願っております。日本の国際都市としては東京が日本の牽引役でありますけれども、アジアの入り口であり、九州を代表する立場にある福岡県が、国際都市として、そして世界のビジネス拠点として発展していくことは、福岡県のみならず九州全体の発展につながると信じております。これからも活気にあふれ、住み続けたいと誰もが思うような福岡県であってほしいとの思いで、この項の質問を行っております。

そこでまず、福岡県に対する世界の認知度についてお聞きをいたします。日本のビジネス都市として名前が出てくるのは、東京、大阪、名古屋が大半を占めており、福岡県は、アジア以外の欧米諸国の外資系企業がビジネス拠点を構えている数も限られていると聞いております。

そこで、福岡県は、ビジネス拠点として世界でどの程度認知されているのかお聞きをいたします。

また、福岡県は、世界のビジネス拠点としてどのような可能性があり、今後どのようなことに取り組んでいかれるのか、知事のお考えをお聞きいたします。

福岡県が世界のビジネス拠点として認知され、福岡県の経済が今後さらに発展していくためにも、福岡県に多くの起業家が誕生し、新しい技術や発想で新たな事業が育っていくことが大変重要であると思っております。

そこで、ベンチャー等への取り組みについてお聞きをいたします。ベンチャー企業を

初め、新たな事業を育てていくための制度や支援策について、これまで県はどのような取り組みを行ってきたのでしょうか。また、どのような成果につながってきたのかをお聞きいたします。

さらに、今後は、IoT、AI、5Gなどの利用が進み、社会の仕組みや仕事のあり方も大きく変化することが予想をされます。これからの二十年、三十年で現在の職業の半分がなくなる、あるいは形が変わると予言する科学者もおります。全く新しい仕事が生まれることも期待をされます。

このように科学技術が加速度的に進歩し、ビジネス環境が大きく変化していく状況の中で、ベンチャー企業や新たな事業が生まれ、育ち、そして、その中から世界に認められるような企業へと成長していくためには、支援していく側としても新たな観点で取り組んでいくことが求められていると思っております。県の立場で、今後どのように取り組みを行っていくかと考えておられるのかをお聞きをいたします。

この項の最後に、企業等の会議、企業等が行う研修旅行、国際機関、団体、学会等が行う国際会議、展示会、見本市、イベントなどビジネスイベントの総称であるMICEへの取り組みについてお聞きをいたします。MICEは一般的な観光と異なる国内外からの誘客につながり、経済効果も大変大きいものがあると思われま。知事は、MICEに対し、今後どのように取り組んでいくのかをお聞きをいたします。

最後に、三つ目の項目として、欧米からの直行便誘致についてお聞きをいたします。福岡はアジアの玄関口であり、福岡県へのインバウンドは、当然、アジアからが多くを占めております。福岡県への全外国人入国者数に占める欧米からの入国者数の割合はわずか二%であり、全国平均の割合が一%であることと比較しますと、五分の一以下となっております。長期滞在型、回遊型の観光客、あるいはMICEへの誘客をふやし、ビジネス拠点として福岡が発展していくためには、欧米などアジア以外からの来訪者をふやしていくことも重要ではないでしょうか。特にビジネス目的の来訪者は、路線の採算性確保には大変重要であると聞いております。現在、欧州とはフィンランド、米国とはハワイとグアムへの直行便があり、今後サンフランシスコへの直行便が検討されていると聞いております。しかし、欧米間の直行便は、これまでも就航したり廃止になったり、あるいは季節限定であったりと、なかなか定着しなかったように思います。福岡への来訪者をふやすには、直行便は不可欠であろうと思います。しかし、一方で、直行便を維持するためには利用者の維持が不可欠であり、そのためには福岡を訪れようとする動機づけが大変重要であります。総合的な取り組みが求められます。

私は、いつの日か、福岡県がニューヨーク、ロンドン、パリなど世界のビジネス拠点都市からの直行便が就航する都市になってほしいと願っております。今後、滑走路の増設、誘導路の整備、ターミナルビルの改築など、福岡空港が大きくさま変わりをします。民間による経営にも期待が寄せられるところであります。

知事は、欧米との直行便の意義、誘致に向けた取り組みについてどのように考えておられるのでしょうか。

また、欧米路線直行便の誘致に対する県のこれまでの取り組みと、今後の対応についてお聞きをいたします。

以上で質問を終わります。

○小川 洋 知事

お答えを申し上げます。まず初めに、九州一体となった取り組みでございます。昨年度は、九州全県でフランスに出向きまして、旅行業者を対象とした商談会、イベントにおきまして、九州及び福岡県の食、自然、伝統文化、そういった魅力を発信してまいりました。また、九州観光推進機構や今回のラグビーのワールドカップの開催地でございます熊本県、大分県と連携をいたしまして、香港、豪州において九州の魅力をアピールしてまいりました。あわせてスポーツ専門メディアやラグビーワールドカップ二〇一九の公認旅行会社の招請を行いまして、今、四十本を超える旅行商品の造成につなげたところであります。

加えて今年度は、九州・山口地域の周遊を促進するため官民が一体となりまして、日本の代表的な文化でございます祭り、これを発信する祭りアイランド九州というものを計画しております。具体的には、大会期間中でありませう九月二十八、二十九日両日、博多祇園山笠、戸畑祇園大山笠を初めとする四十一の祭りが、熊本市の被災地、熊本に集結をいたしまして競演をいたします。また、この大会期間中に九州・山口各地で開催をされませう五十七の祭りについても専用ウェブサイトでPRをするとともに、それらの各地を周遊してもらつための国内外の旅行会社にこれらの祭りを組み込んだ旅行商品の造成というものを行ってもらうことといたしております。

次に、大会を盛り上げる企画でございます。開幕百日前の今月の十二日でございますけれども、県庁ロビーでコンサートを行いました。また、十五日には福岡市役所前広場におきまして、ラグビーイベントを実施したところでございます。また、福岡空港には巨大ラグビーボールやフォトパネルを設置をいたしますとともに、福岡市天神の商店街を、今、バナーで装飾をしているところであります。また、七月からは博多祇園山笠が始まれますけれども、この博多祇園山笠におけるラグビーを題材にした飾り山、これを展示をいたします。また、ラグビー日本代表のテストマッチのパブリックビューイングというものも実施をしてまいります。大会一カ月前となります八月中旬からは、福岡空港、博多駅、天神の大型商業施設、渡辺通り、福岡空港駅から会場までの徒歩ルート、これらの沿線につきまして、この場所につきまして、こういった試合が開催されませう福岡市を中心に、今申し上げた場所で横断幕や街路灯バナー、あるいはパネル等で装飾いたしまして、大会開催まであとわずかかと、そういった雰囲気づくりと盛り

上げを行ってまいる予定であります。大会期間中でございますけれども、福岡を訪れた方に楽しんでいただけるよう、ファンゾーンにおきましてパブリックビューイングを実施するとともに、ラグビー体験や飲食ブース等を設けさせていただきます。また、例年この時期に天神中央公園で行われておりますフードエキスポ、また福岡市役所前広場で行われておりますミュージックシティ天神、そういったイベントにおきましても、このラグビーをPRする演出等を行っていただく予定でございます。さらに大会に向けて作成する飲食店マップに掲載する店舗におきましては、ポスターの掲示、Tシャツの着用、ラグビーグッズの配布といった協力をいただくことになっております。こうした取り組みによりまして、あと三カ月となりますラグビー、これをしっかり盛り上げていきたいと思っております。

大会成功に向けた私の決意、お尋ねがございました。この大会開催には、皆さんも記憶を呼び覚ましていただければわかると思っておりますけれども、非常に厳しい誘致の段階がございました。その厳しい誘致の段階から本当に大勢の皆様にご尽力をいただいております。その中には既に亡くなられた方もいらっしゃるわけでありまして。大会が目前に迫りましていよいよという高揚感、それと同時に、改めてこの大会開催にご尽力をいただいた大勢の皆様のそれぞれの思いというものをこの大会の成功につなげていかなければならない、そういう気持ちを新たにしているところであります。大会まで残り三カ月、大会の成功に向けまして、組織委員会を初め、関係の皆様と最後までしっかりスクラムを組んで準備に万全を期してまいります。

次に、ビジネス拠点としての福岡の認知度と今後の取り組みでございます。本県には四つの自動車メーカーの生産工場や自動車関連企業五百六十社が立地をしております。本県を中心とする北部九州は、年間百五十九万台というイギリス一國並みの生産能力を有する世界有数の自動車の生産拠点到成長いたしております。また、県内には産業用ロボット、自動車、航空機用タイヤで世界トップクラスのシェアを誇る企業など、すぐれた技術を有する企業が数多くございます。海外からの企業立地も進んできておりまして、誘致件数は、IT、半導体関連企業など、過去五年間で七十三社に上っております。さらに本県におきましては、毎年海外からのバイヤーが集まる国際見本市、展示会が開催をされております。国内最大級の食品国際商談会でございますフードエキスポ九州におきましては、平成二十六年、三十三社でございました海外バイヤーが、昨年、八十六社へふえております。また、県議会の皆様と一緒にやっております県産酒を一堂に集めたアンド・サケ・フクオカ、ここにおきまして、昨年五社、海外バイヤーが来ておりましたが、ことしは十八社にふえております。このように福岡の認知度は高まってきているものと考えております。

県におきましては、バイオ、ロボット、水素、有機EL、航空機といった先端成長産業の育成に取り組んでおりまして、例えばバイオ関連分野の核酸医薬、あるいはゲノム編集、有機EL分野の革新的な発光材料など、世界が注目をする技術というものを生

まればつあります。県といたしましては、福岡が世界的なビジネス拠点となりますよう、今後、今申し上げましたような技術を核として産業の集積を一層高め、自動車に次ぐ産業拠点の構築に積極的に取り組んでいくとともに、引き続き海外企業の誘致、それから国際見本市、展示会の開催というものを図ってまいります。

次に、ベンチャー支援、これまでの取り組みと今後についてでございます。県におきましては、これまでフクオカベンチャーマーケットにおけるビジネスプランの策定、資金調達などの支援、それから工業技術センターによる技術開発の支援、低利の県制度融資であります新規創業資金による支援、さらにはバイオ、先端半導体分野のインキュベーション施設の提供など、これらを通じましてベンチャーの支援を行ってまいりました。こうした取り組みによりまして、例えばバイオ分野では、難病の治療薬として期待されております核酸医薬に関する独自技術を持つ企業など、今二百二十五社の、また半導体分野におきましては、次世代IoT無線通信のすぐれた技術を有し急成長を遂げております企業など二百五十五社のベンチャー企業が県内にそれぞれ集積してきたところであります。フクオカベンチャーマーケットにおきましては、これまで二千五百八十五社が登壇をし、ビジネスプランを発表をいたしました。そのうち二十七社が株式公開まで至っているところであります。

今後、IoT、AIなど先端技術分野につきましてはさらなる成長が見込まれるわけでございます。県におきましては、次世代通信技術等に対する研究開発の支援や、IoT、AI技術をテーマとした技術者の育成に努めてきておりまして、本県発の技術による新製品も相次いで生まれつつあります。今年度からは、こうしたすぐれた製品、サービスにつきまして、福岡県IoT認定制度というものを創設いたしまして、それらの販売の拡大というものを支援していきたいと考えております。こうした取り組みによりまして、先端技術分野においてベンチャー企業が生まれ、育っていく好循環というものを生み出していきたいと考えております。

次に、MICEへの取り組みでございます。県内におきましては、国内外から多くの参加者が集まってまいります国際会議というものが毎年数多く開催されております。その件数を見ても、平成二十六年以降、四年連続、四十七都道府県の中で東京都に次いで全国第二位となっているところであります。県におきましては、これまでもさまざまな分野で大規模な国際会議等の誘致や開催にかかわってまいりました。例えば近年におきましては、昨年五月に福岡市で開催されました第十六回アジア太平洋地域ITSフォーラム、ことし四月に福岡市で開催されましたルビーカイギ二〇一九、今度開催されますラグビーの世界カップ二〇一九でありますとか、先般開催をされましたワールドラグビー女子セブンズシリーズ北九州大会、これらにつきまして、主催者団体等関係者に対し誘致の働きかけを行ってきたところであります。また、今月福岡市で開催をされましたG20 福岡財務大臣・中央銀行総裁会議におきましては、観光、食、農林水産物など福岡県の魅力の発信のほか、会議の安全かつ円滑な運

営に不可欠な警備面での支援というものをやらせていただいたわけであります。さらにMICE開催に際しましては、会議出席者や同行者に対しまして、多言語の観光パンフレットというものを提供し、県内各地への周遊を促すとともに、会場における県産品の展示販売などに取り組んできているところであります。県といたしましては、今後ともMICEの誘致、開催の支援、また、このMICEを契機とした幅広い意味での観光の振興に積極的に取り組んでまいります。

次に、欧米との直行便の意義と誘致についてでございます。福岡空港と欧米を結ぶ直行便につきましては、本県のみならず九州、西日本地域から欧米への渡航が容易になるとともに、欧米からの観光客等の誘致につながるなど、経済、観光、国際交流の活性化という観点から大変意義あるものであると考えております。欧州との直行便でございますけれども、現在、フィンエアーが夏ダイヤで就航しているところでございまして、まずはこれを通年運航とすべく、県としてこれまで複数回にわたりましてフィンエアーの本社を訪問し、通年運航の実現について強く働きかけを続けてきております。また、県が出資をしております福岡国際空港株式会社とは、同社が欧州路線の通年化、米国路線の誘致に積極的に取り組んでいくことを確認をし、そのマスタープラン、中期事業計画にそれらが明記されたところであります。現在、同社に設置されたエアライン誘致専任部署によって、航空会社に対する営業活動というものが実施されているところであります。県といたしましては、今回のラグビーワールドカップに訪れる欧州などからの観戦客に対しまして、私ども九州も含めた地域の魅力を発信し、リピーターの獲得に努めていくなど、スポーツ、観光、経済・国際交流といったさまざまな分野において人的交流が進み、路線の誘致につながっていくような環境整備に資する施策というものを進めていくことといたしております。あわせて福岡国際空港株式会社との意思疎通をしっかりと図りながら、直行便の就航が期待できる航空会社への働きかけというものも行ってまいります。